

# セネガル活動計画①

～PROBLEM TREE～

## 【目的】

セネガルでのレスリング普及・発展

## 【問題背景】

セネガルには日本のようなレスリング協会というレスリングに特化した独立組織は存在しないが、その代わりにスポーツ省により構成された国が管轄するセネガル相撲協会という組織が存在する。

この組織の役割は4競技(プロスポーツのセネガル相撲殴りあり、セミプロスポーツのセネガル相撲殴りなし、アマチュアスポーツのレスリングとビーチレスリング)の普及・発展の実現に向けた活動計画の作成、選手・指導者・審判の育成・強化や養成、競技大会運営等競技に関わること全般のマネジメントである。

この4競技は同協会により管理・運営されているが、各競技は様々な要因により普及・発展の進捗状況は異なる。そのため、それぞれの競技の状況を比較分析した上で、組織の管理体制や現状の問題について説明していく。

### ▶ セネガル相撲

セネガルの国技であるセネガル相撲殴りありとセネガル相撲殴りなしは、1960年のフランスからの独立以前から歴史的・伝統的な民族・部族の間で娯楽として行われていた競技であり、人々の生活や習慣に深く根付いているため、国民に広く認知されている。また、西アフリカにはこの競技と同様に民族・部族による伝統競技はあるものの、セネガル相撲は特に競技ルールなどの整備や管理が他国に比べて整っており、この2競技は国内のみならず、西アフリカを中心とした約15ヶ国で普及・発展を遂げている。セネガル相撲の大会は年に数回の国際大会(アフリカ大会、フランス圏大会)、国営による国内大会、民間企業運営による国内・国際大会が開催されている。大会の様子は国内・国外双方のメディアに取り上げられており、参入国以外の世界各国からも注目を集め、国際的にも周知されてきている。その事例として、セネガル相撲は総合的な格闘技能力が備わっていることから、海外の格闘技団体からの注目を集めて、選手の契約や引き抜きなどが行われている。選手は新たな市場としての参入を求めてきている。

自国でのみならず、国外への影響力があるセネガル相撲は、国内の各地域にセネガル相撲殴りありとセネガル相撲殴りなしに特化したセネガル相撲協会が管轄している組織を設置しており、各地域での競技者・指導者・審判などの指導育成や養成プログラムの計画、各種資格制度(競技者資格、指導者資格、審判資格)の整備、注目選手のデータ

分析、大会結果等の情報管理、行政機関や民間企業との連携、メディアを活用した発信を実施して、組織運営体制の基盤を構築している。

セネガル相撲の競技特性のメリットとして、場所は砂の上、衣類は布 2メートルほど使用した禪の着用のみで、その他に必要な物資は無いため競技を行うに際してほとんど経費がかからないこと、各地域には民間のクラブチームが存在しており、選手・コーチなどの人材や練習環境が整っていることが挙げられる。これらのメリットにより、家庭環境による貧困格差などの社会的要因に関わらず誰もが競技に参加し易くなっており、国内での競技者数が非常に多く、国民的人気が高い。

現在、セネガル相撲協会は国内・国外での普及・発展を目指しており、明確な目標としては、オリンピックの正式種目への導入を掲げている。

## ▶ レスリング

一方、レスリングとビーチレスリングは様々な社会的要因やセネガル相撲協会内部における働き方や組織運営体制が脆弱であること、国際的な人気は高いものの、ヨーロッパ発祥の競技であり国技のセネガル相撲と類似競技であることにより、セネガル相撲と比較すると国内での普及・発展を遂げていない。

具体的にセネガル相撲協会がどのような活動を行い、どのような問題や課題を抱えているかを、JICA ボランティアとして 2 年間活動していた時の経験や情報、協会関係者との意見交換などで得た情報をもとに分析していく。

## 【Problem Tree】

セネガルでレスリングが普及・発展していないコアな問題として、セネガル相撲協会の運営力に問題があると考えられる。また、この問題を引き起こしている要因は、ハード面の脆弱性とソフト面の脆弱性の二点に分かれている。

### 【要因 1：ハード面の脆弱性】

ハード面の脆弱性は協会の運営資金不足が引き起こしていると考えられる。この原因には、スポーツ省の予算不足と、民間企業のスポンサーやビジネスパートナーがいないことの 2 点が含まれている。

初めに、協会の運営資金不足ではスポーツ省予算の不足が考えられる。セネガルではスポーツ省により、国の政策に関わるスポーツ施設整備費や教育費等のほかに、各スポーツ協会への資金援助として、協会運営費や国内・国際大会に関する費用(大会開催運営費、渡航費、選手強化費など)が支給される。予算配分方法としては、国の政策に関わるスポーツ政策として欠かせない国益につながる要素のある競技や、国内で需要の高い競技への支援が優先される。これらの点から、国際大会での実績があり、外交関連でも有効的かつ国内での認知度も高く競技者人口も多いサッカーや、セネガルの国技であ

り西アフリカでも普及・発展を遂げているセネガル相撲への資金支援は手厚くなっていると考えられる。一方、レスリングはそれらのスポーツに比べて国際大会での実績や国内での認知度が低いことや、レスリングを管轄しているセネガル相撲協会では4競技を運営・管理していることから、その中でもより資金配分優先度の低いレスリングへの予算は少なくなると考えられる。2014年から2017年にかけては、アフリカレスリング協会とセネガル相撲協会が連携して、セネガルを拠点にアフリカ全土の強豪選手を集結させてレスリングの強化合宿をしていた。その時に育成・強化された選手が国際大会(オリンピック、世界選手権、アフリカ大会、フランス圏大会など)で実績を出してきた。それにより、実績が評価として反映され、協会内でもある一定の予算(国際大会費用、国際大会事前合宿費、ナショナル合宿の選手強化費)を確保してきていた。しかし、近年では国際大会での実績が低下してきていること、実績以外にメリットとしての評価に値する根拠のあるデータや計画に基づいたアプローチが行えていないこと、競技者人口不足による国内需要が不足していることなどの複数要因により、予算が削減されている。例えば、国内でのレスリング需要を明確にするアプローチとしては、国内レスリング人口のデータを収集すること、若手選手から高齢選手のレスリングを通じたイベントの実施やそれらを通じた交流による地域活性化、国際大会での実績を出すために必要な効果を含めたナショナル強化合宿の年間スケジュールの作成、外交政策に繋がるセネガルでの国際大会に向けた誘致活動計画の作成やそのための環境整備などの具体的な取り組みやそれらを用いたアプローチなどがあり、上述した具体的かつ現実的な提案ができていないことが、予算が確保できていない原因であると考えられる。

(↑ステークホルダー)

スポーツ省(CNEPS 校長はスポーツ省の役人、ンジャイ=元カウンターパート)

セネガル相撲協会(委員長、レスリング責任者=イザベル、事務局員)

州スポーツ行政機関(マリアーム・ンジャイ)

県スポーツ行政(マム・ムサ・シセ)

地域セネガル相撲協会(アサン・ファル)

競技参加者や指導者(シニア・ジュニアの選手、愛好家、コーチ<シェール、ビラ>)

フランス在住の選手(フランスでは選手兼クラブチームのコーチ)

児童の保護者

市役所(市長)

地域内の軍隊

隣町のスポーツ団体長

各種メディア

教育現場(小・中・高)

次に協会の運営資金不足を引き起こしている原因は、民間企業によるスポンサーやビジネスパートナーがないことである。その要因として2点考えられる。

1点目は、アプローチはしているものの、企業側はレスリングを支援することによって産み出される利益がないことが考えられる。例えば、セネガル相撲協会のレスリングの普及・発展を目指したイベントの開催や、レスリングと通じた地域内でのコミュニティー拡大による街づくりなどの社会貢献活動、国民の注目度向上に向けたポスターやSNSを活用した宣伝などと、様々なスポーツマーケティング手法の知識不足や、現段階での実現可能な情報収集や計画の発案に向けた取組が欠如していることである。

2点目は、前述した企業に対するレスリングへの交渉要素や応援材料不足、国内メディアを活用した国際大会結果の情報公開や周知の不足などと、実現可能な取り組みを行っていないことが考えられる。例えば、科学データなどの根拠をもとに目標を設定して計画を作成すること、それらによるレスリングの期待値を応援材料にすること、これまでの実績データの公開やホームページを活用した閲覧方法の工夫などである。

(↑ステークホルダー)

スポーツ省(CNEPS 校長はスポーツ省の役人、ンジャイ=元カウンターパート)

セネガル相撲協会(委員長、レスリング責任者=イザベル、事務局員)

州スポーツ行政機関(マリアーム・ンジャイ)

県スポーツ行政(マム・ムサ・シセ)

地域セネガル相撲協会(アサンファル)

競技参加者や指導者(シニア・ジュニアの選手、愛好家、コーチ<シェール、ビラ>)

児童の保護者

民間企業

市役所

各種メディア

## 【要因2：ソフト面の脆弱性】

ソフト面の脆弱性の要因として2点が考えられる。

1つ目の要因は、世界レスリング協会との連携不足である。協会は公式ホームページを開設しているものの、ホームページ上には組織の計画や活動状況の公開、選手のデータ分析や情報管理、大会結果などの情報発信がされていない。また、他の組織との連携が取れていない。その背景にはIT専門技能を持つ職員がいないこと、技能はあるが意欲がない職員がいることが考えられる。実際に、元世界レスリング協会の三木氏がセネガルのレスリング指導者・審判への無償支援の指導者制度の活用を勧めるために、セネガル相撲協会に連絡を試みたが、ホームページの連絡先には問い合わせをできなかった事例がある。

(↑ステークホルダー)

世界レスリング協会(事務局)

スポーツ省(CNEPS 校長はスポーツ省の役人、ンジャイ=元カウンターパート)

セネガル相撲協会(委員長、レスリング責任者=イザベル、事務局員)

地域セネガル相撲協会(アサンファル)

資格講習参加者(指導者、審判)

2つ目の要因は、資格制度の構築不足と制度の運営が不十分であることが考えられる。この背景には3点の問題が考えられる。

1つ目の問題は、資格講習を受けるためのハードルが高いことである。現在、国内には指導者資格を所有し、ナショナルチームに所属してコーチ・監督を就任しているものはいるが、それらは若干名であり、スポーツ省や協会内で選任されたもののみが受講できる資格講習制度となっている。そのため、誰もが指導者を目指して取得できるような基準や機会が設けられていない。

2つ目の問題は、講習を実施する指導者が不足していることが考えられる。協会の運営資金はスポーツ省の予算によって賄われているが、レスリングに割り当てられる資金が不足していることから、講習を行う指導者を雇用できないことが考えられる。

3つ目の問題は、少年少女選手におけるライセンス制度が未構築であることである。現状として、協会には成人に対するライセンス制度(選手登録制度)はあるが、少年少女のライセンス制度(選手登録制度)は存在しない。その理由として3点挙げられる。1点目は、協会事務局には制度の管理やデータ収集を行う人材が不足していること。2点目は、人材は揃っているが意欲がないということ。3点目は、協会の方針として少年少女競技者の育成・強化を重要視していないことから、選手養成自体を行わない考えを示していることである。

(↑ステークホルダー)

スポーツ省(CNEPS 校長はスポーツ省の役人、ンジャイ=元カウンターパート)

セネガル相撲協会(委員長、レスリング責任者=イザベル、事務局員)

州スポーツ行政機関(マリアーム・ンジャイ)

県スポーツ行政(マム・ムサ・シセ)

地域セネガル相撲協会(アサンファル)

少年少女選手と保護者

資格取得希望者

## 【影響】

以上が協会運営力の主な問題と考えられる。またその結果、いくつものレスリング普及・発展を妨げる影響が生じる。

スポーツ省予算不足は、ナショナルコーチへの給与が支払えなく有望人材が国外に流失すること、これまでは海外遠征費が確保していたことで国際大会へ各階級の選手派遣が可能であったが、海外遠征等の費用減額により国際大会出場枠を削減せざるを得なくなったこと、選手強化費不足によりナショナル合宿が減少すること、競技関連のインフラ整備不足などの影響が生じる。また、スポンサーやビジネスパートナーがいないことでは、協会の予算のみでしか運営を行えず、厳しい財政状況に陥り、大会運営などの各種イベント開催費を賄うことができなくなる。次に、世界レスリング協会との連携不足により、全世界のレスリング競技団体に対する支援策である指導者や審判の無償支援の資格習得制度があるにもかかわらず、ホームページの更新や適切な情報の公開ができていないことにより、連絡を取れずに制度の利活用ができていないこと。さらに、資格制度講習を通して実施する、専門技能人材(指導者や審判)の養成や育成支援ができないこと、実習訓練を指揮する適正人材(技能を持った競技経験者、競技特性・ルール・医療等の専門知識を持つ人材)の養成ができないことは、レスリング関係者不足に繋がり、競技イベント等の開催が行えなくなること、若手選手の育成ができなくなること、競技を広める人員不足で、国民の理解度や認知を高めることができないといった影響を及ぼす。その他にも、人材不足や予算不足といった多岐にわたる相互要因は、国内大会の開催及び、選手の競技力向上を妨げ、スポーツ省の目指す国際大会でのメダル獲得といった実績を出すことができなっている。よって、スポーツ省予算の削減にも繋がる。ここで述べた全ての問題要因と影響は相互作用の関係にあり、その根幹となる問題は協会の運営力であると導き出せる。

以上が協会運営力の不足による問題と、それらによって生じる影響である。

## 【ステークホルダー】

(スポーツ省、協会の組織運営者、事務局の運営管理担当者、技術者、世界レスリング協会、メディア(テレビ、ラジオ、新聞)、審判員や指導者候補選手、教育現場(小・中・高・大)、自衛隊、他競技の協会、児童やその両親、地方公共団体、民間企業、日本のレスリング関係者〈専修大学や日本体育大学など〉)

#### ◆目標達成時の影響

スポーツ省予算並びにスポンサー支援による国・民間企業による資金確保、各種ライセンス制度構築、競技者人口や審判や指導者等のレスリング関係者増加、国民への認知度向上、地域コミュニティの活性化、国内大会の実施、国際大会での競技成績向上、セネガル相撲協会からレスリングの独立など。

#### ◆さらにこの活動によって社会に寄与する事柄

○発展途上国でのスポーツを通じた普及・発展活動のための活動プロセス【(例)問題の抽出方法、ステークホルダーの検出、それらへの的確なアプローチ方法、生み出せる影響】はレスリングのみならず、他の同じような悩みや課題を持った競技団体や組織でも活用できる先行例になりえることで、活動の意義を高めて、培った知識や経験は社会貢献に寄与することができる。

○レスリングの持つ力や可能性を広めることで、地域活性化(若年者から高齢者の交流の機会が増えることで地域コミュニティの団結力向上、レスリングを楽しむことでの人々の心や身体への健康促進)に繋がる。

○レスリングを通じて規律を守ることや精神的・肉体的な強さを身に着けることは、道徳精神を養い、謙虚で堅実な人間性の構築を図る。また、老若男女問わず、スポーツの教育的価値や必要性を見出していくことで国民の理解や賛同を得ていける環境を創造して、国や地方公共団体の教育への取組にスポーツを率先して導入していく状況を生み出していく。